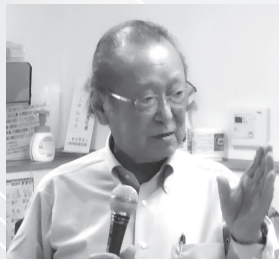


「まちの駅・くしがた」が生まれ変わる！！ 店舗リニューアルに向けて専門家を活用

南アルプス特産品企業組合・ほたるみ館（上田みな子理事長 / 組合員 140 名）では、8 月 8 日（火）に、組合が運営する農産物直売所「まちの駅・くしがた」のリニューアルのため、中央会の中小企業個別相談事業の専門家派遣を活用した講習会を開催した。招かれた専門家の経営コンサルタントの上條資男氏は、売り場のレイアウト変更や備品追加・改修など、現場実査と組合員・従業員へのヒアリングをもとに作成されたレイアウト図面を使って売り場の改善提案を行った。

上條氏は、「まちの駅の最大の魅力は地元産野菜や組合員の加工食品を“低価格”で提供している点であるが、お客さんが来れば意味がない」



講師 上條資男氏

として通りがかりの人にまずは来店してもらえよう、上り旗やテント、カーポートを活用した店舗の視認性を高める工夫や、来店したお客さんが買い物をしやすく、再来店につなげるための具体的な店内の改善案として、「①顧客の

南アルプス特産品企業組合 ほたるみ館

買い回り性を高めるための、店舗面積の拡幅と陳列棚等のレイアウトの全面的な変更。②顧客に買物の便利さを提供するための、商品の関連性を高める陳列の仕方やポップの活用方法。（レタスの隣にはマヨネーズなど、一緒に使う品物は隣に陳列する）③生産者と協力して「現状の野菜の品目数の 3 倍」を合言葉に出品商品を増やす。④組合員や業者委託からの仕入れ品目を拡充し欠落商品を減らす。（欠落商品＝この店なら当然扱っているだろうと顧客が思う商品）」などが示された。



上田理事長は、「今よりもさらに地域へ“普段の暮らしの豊かさ”や“便利さ”を提供することができるよう、組合員やまちの駅の従業員、野菜の生産者など一人ひとりに働きかけ、一丸となって取り組んでいきたい」と語った。

